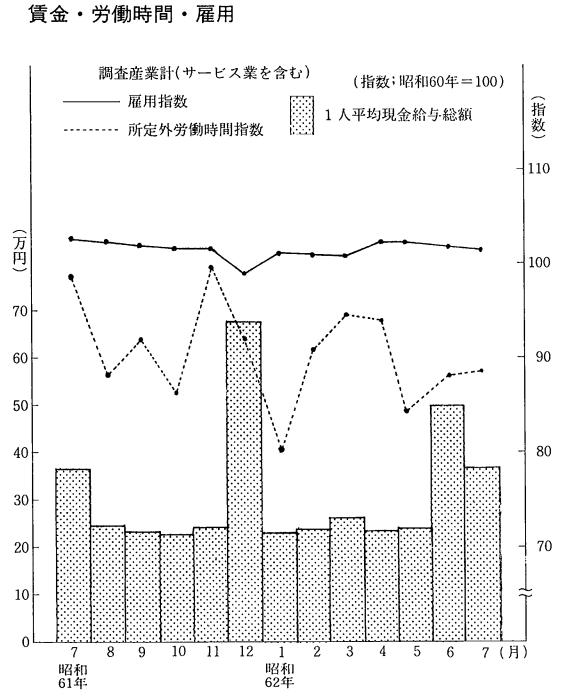
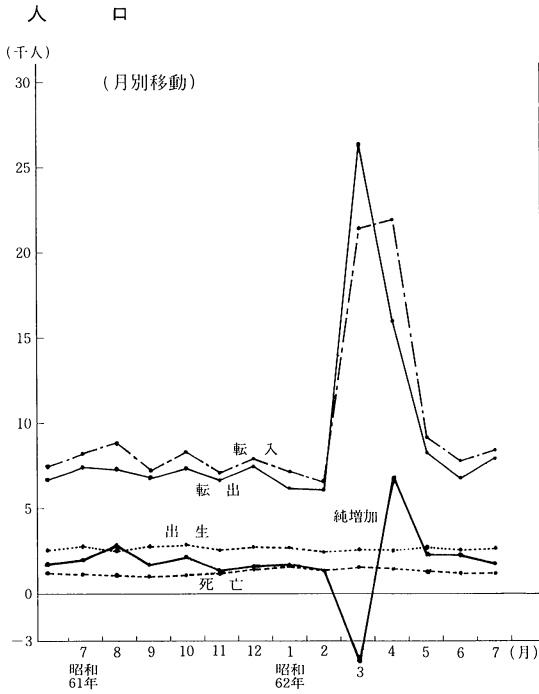
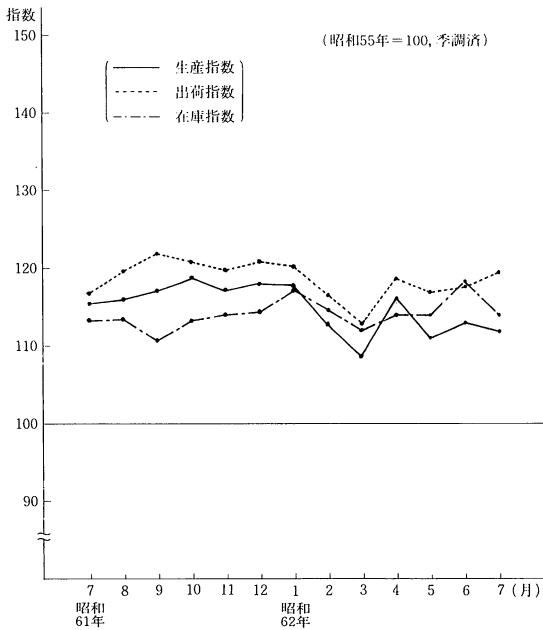


● 今月の主な動き

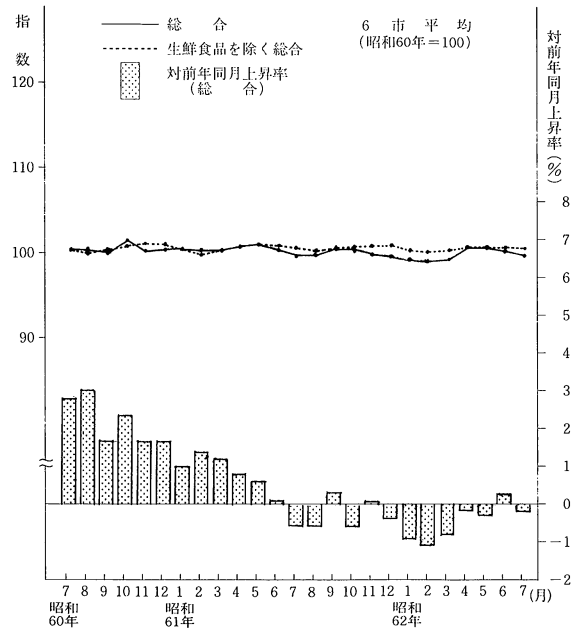
今月の主な動き



鉱工業指数 (生産・出荷・在庫)



消費者物価指数



主な動きのあらまし……………企画部統計課

■人口(7月1日)

本県の人口は、6月中に2,289人増加し、7月1日現在で2,762,720人(男1,377,106人、女1,385,614人)となった。

内訳は、自然動態で1,406人(出生2,718人、死亡1,312人)、社会動態で883人(転入7,872人、転出6,989人)、それぞれ増加した。昨年7月1日現在と比較すると、23,388人

(0.85%)の増加である。

市町村別では、増加が15市52町村、減少が4市20町村、増減なしが1町である。

世帯数についても、1,034世帯増加して、780,315世帯となった。

■賃金・労働時間・雇用(6月)

1. 平均賃金の推移

6月の常用労働者1人1ヵ月平均現金給与総額は497,308円で前月に比べ106.8%増(前年同月比3.6%増)であった。

このうちきまって支給する給与は239,049円で前月に比べ1.4%増(前年同月比2.0%増)であり、特別に支払われた給与は258,259円で前年同月に比べ12,501円増であった。

2. 労働時間

総実労働時間数は185.1時間で、前月に比べ9.1%増(前年同月比0.4%減)であった。

このうち所定内労働時間数は169.1時間で、前月に比べ9.6%増(前年同月比0.3%増)であり、所定外労働時間数は16.0時間で、前月に比べ4.5%増(前年同月比6.5%減)であった。

3. 雇用の動き

雇用の動きを雇用指数(昭和60年=100)によってみると102.0で、増減率は前月に比べ0.4%減、前年同月に比べ1.1%減であった。

■鉱工業指数<生産・出荷・在庫>(6月)

本県における昭和62年6月の“鉱工業指数”(昭和55年=100)は、季節調整済指数で、生産が112.9、出荷が117.6、在庫が118.0で前月比は、生産が2.1%の上昇、出荷が0.8%の上昇、在庫が3.3%の上昇であった。前年同月比(原指数)は、生産が△2.3%の低下、出荷が1.0%の上昇、在庫が3.6%の上昇であった。

業種別に前月比をみると、生産では、化学工業、鉱業、輸送機械工業、石油・石炭製品工業等が上昇し、電気機械工業、一般機械工業、繊維工業等が低下した。出荷では、鉱業、化学工業、石油・石炭製品工業、輸送機械工業等が

上昇し、一般機械工業、電気機械工業、鉄鋼業等が低下した。在庫では、化学工業、電気機械工業、一般機械工業等が上昇し、繊維工業、輸送機械工業、食料品・たばこ工業等が低下した。

特殊分類別にみると、生産では、鉱工業用生産財、非耐久消費財が上昇し、耐久消費財、その他用生産財、資本財等が低下した。出荷では、非耐久消費財、その他用生産財等が上昇し、資本財、耐久消費財が低下した。在庫では、耐久消費財、その他用生産財、資本財等が上昇し、非耐久消費財が低下した。

■消費者物価指数(6月)

昭和62年6月の茨城県消費者物価指数は、総合で100.5(昭和60年=100)となり、前月比△0.3%の下落、前年同月比0.3%の上昇となった。

今月上がった主な項目……外食0.5%、家賃0.4%、果物0.3%、保健医療用品・器具0.3%

今月下がった主な項目……野菜・海藻△4.0%、魚介類△2.3%、油脂・調味料△0.7%、生地・他の被服類△0.7%、他の教養娯楽△0.7%

生鮮食品を除く総合は100.9となり、前月比△0.1%の下

落、前年同月比0.2%の上昇となった。

費目別指数

(昭和60年=100)

区 分	指数	上昇率(%)		区 分	指数	上昇率(%)	
		対前月	対前年同			対前月	対前年同
総 合	100.5	△0.3	0.3	保健医療	103.0	0.1	1.4
食 料	98.8	△0.6	△0.3	交通通信	101.1	△0.1	2.3
住 居	104.6	0.2	1.9	教 育	110.1	0.0	5.3
光熱・水道	89.8	0.0	△5.9	教養娯楽	100.9	△0.7	△0.1
家具・家事用品	99.3	0.0	△0.4	諸 雑 費	103.0	0.1	△0.2
被服及び履物	104.4	△0.3	1.2	生鮮食品を除く総合	100.9	△0.1	0.2

● 今月の主な動き ●

■ 人口 (8月1日)

本県の人口は、7月中に1,862人増加し、8月1日現在で2,764,582人(男1,378,063人, 女1,386,519人)となった。

内訳は、自然動態で1,443人(出生2,841人, 死亡1,398人)、社会動態で419人(転入8,389人, 転出7,970人)、それぞれ増加した。昨年8月1日現在と比較すると、23,086人

(0.84%)の増加である。

市町村別では、増加が15市53町村、減少が4市18町村、増減なしが2村である。

世帯数についても、565世帯増加して、780,880世帯となった。

■ 賃金・労働時間・雇用 (7月)

1. 平均賃金の推移

7月の常用労働者1人1ヵ月平均現金給与総額は356,104円で前月に比べ28.4%減(前年同月比1.1%減)であった。

このうちきまって支給する給与は239,183円で前月に比べ0.1%増(前年同月比2.3%増)であり、特別に支払われた給与は116,921円で前年同月に比べ9,441円減であった。

2. 労働時間

総実労働時間数は182.2時間で、前月に比べ1.6%減(前年同月比0.6%増)であった。

このうち所定内労働時間数は166.1時間で、前月に比べ1.8%減(前年同月比1.8%増)であり、所定外労働時間数は16.1時間で、前月に比べ0.7%増(前年同月比9.5%減)であった。

3. 雇用の動き

雇用の動きを雇用指数(昭和60年=100)によってみると101.3で、増減率は前月に比べ0.7%減、前年同月に比べ1.6%減であった。

■ 鉱工業指数〈生産・出荷・在庫〉 (7月)

本県における昭和62年7月の“鉱工業指数”(昭和55年=100)は、季節調整済指数で、生産が111.7、出荷が119.2、在庫が113.9で前月比は、生産が△1.0%の低下、出荷が1.4%の上昇、在庫が△3.5%の低下であった。前年同月比(原指数)は、生産が△2.8%の低下、出荷が2.5%の上昇、在庫が0.9%の上昇であった。

業種別に前月比をみると、生産では、電気機械工業、窯業・土石製品工業、鉄鋼業等が上昇し、化学工業、石油・石炭製品工業、金属製品工業等が低下した。出荷では、一般機械工業、電気機械工業、鉄鋼業等が上昇し、金属製品

工業、石油・石炭製品工業、化学工業等が低下した。在庫では、鉱業、その他製品工業、食料品・たばこ工業等が上昇し、化学工業、非鉄金属工業、木材・木製品工業等が低下した。

特殊分類別にみると、生産では、耐久消費財、その他用生産財等が上昇し、鉱工業用生産財、建設財が低下した。出荷では、資本財、耐久消費財等が上昇し、非耐久消費財、鉱工業用生産財が低下した。在庫では、非耐久消費財が上昇し、その他用生産財、資本財、耐久消費財等が低下した。

■ 消費者物価指数 (7月)

昭和62年7月の茨城県消費者物価指数は、総合で99.7(昭和60年=100)となり、前月比△0.8%、前年同月比△0.3%の下落となった。

今月上がった主な項目……油脂・調味料1.2%、乳卵類

0.7%、上下水道料0.7%、家賃0.6%、魚介類0.6%

今月下がった主な項目……野菜・海草△10.2%(うち生鮮

野菜△16.5%)、果物△5.6%(うち生鮮果物△5.7%)、

シャツ・下着△4.7%、衣料△4.0%、飲料△0.6%

生鮮食品を除く総合は100.7となり、前月に比べ△0.2%

の下落、前年同月に比べると0.2%の上昇となった。

費目別指数

(昭和60年=100)

区 分	指数	上昇率(%)		区 分	指数	上昇率(%)	
		対前月	対前年同月			対前月	対前年同月
総 合	99.7	△0.8	△0.1	保健医療	102.9	△0.1	1.2
食 料	97.6	△1.2	△1.2	交通通信	101.1	0.0	2.7
住 居	105.0	0.4	2.4	教 育	110.1	0.0	5.3
光熱・水道	89.9	0.1	△4.7	教養娯楽	100.5	△0.4	△0.1
家具・家事用品	99.2	△0.1	△0.4	諸 雑 費	103.1	0.1	0.3
被服及び履物	101.1	△3.2	△1.7	生鮮食品を除く総合	100.7	△0.2	0.2